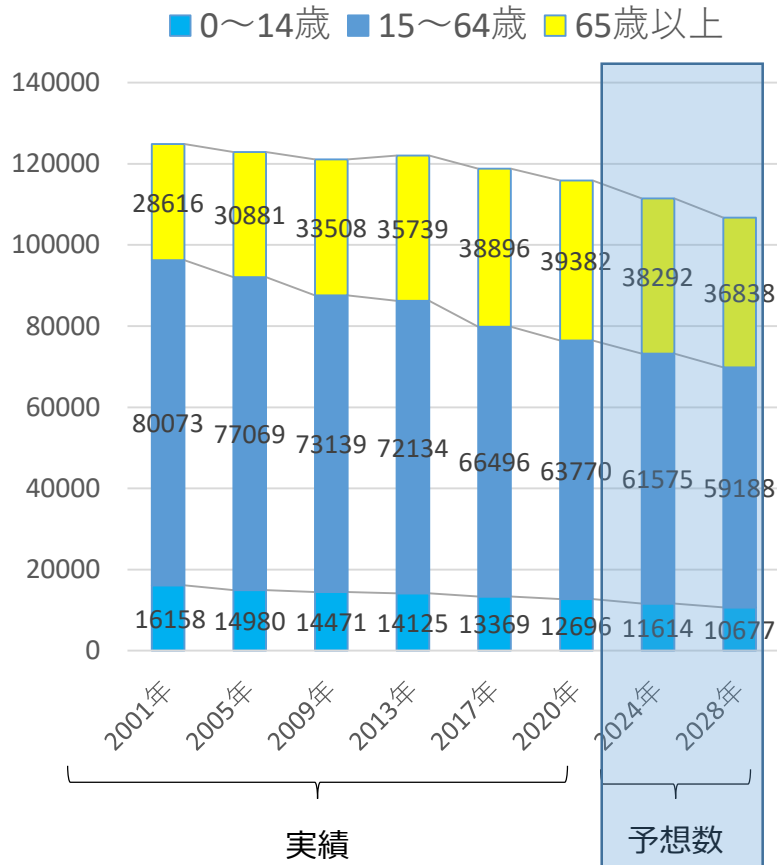
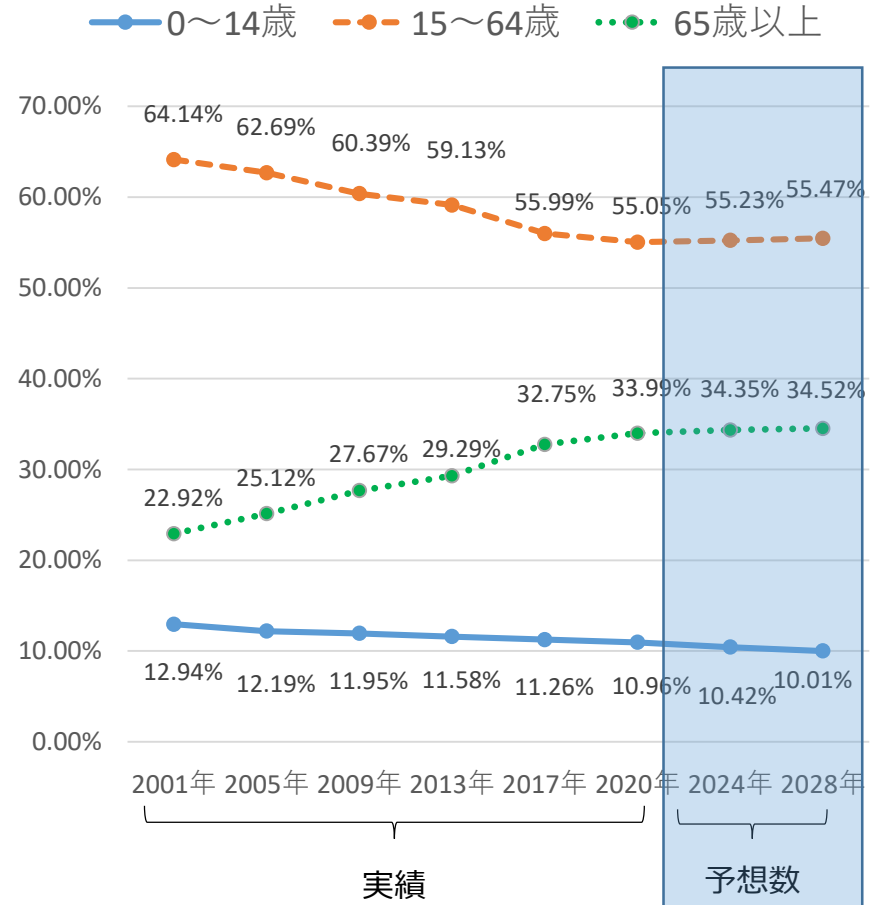


資料：住民基本台帳（各年3月31日）

■別府市の人口推移（実態と予想）



■別府市の人口割合推移（実態と予想）

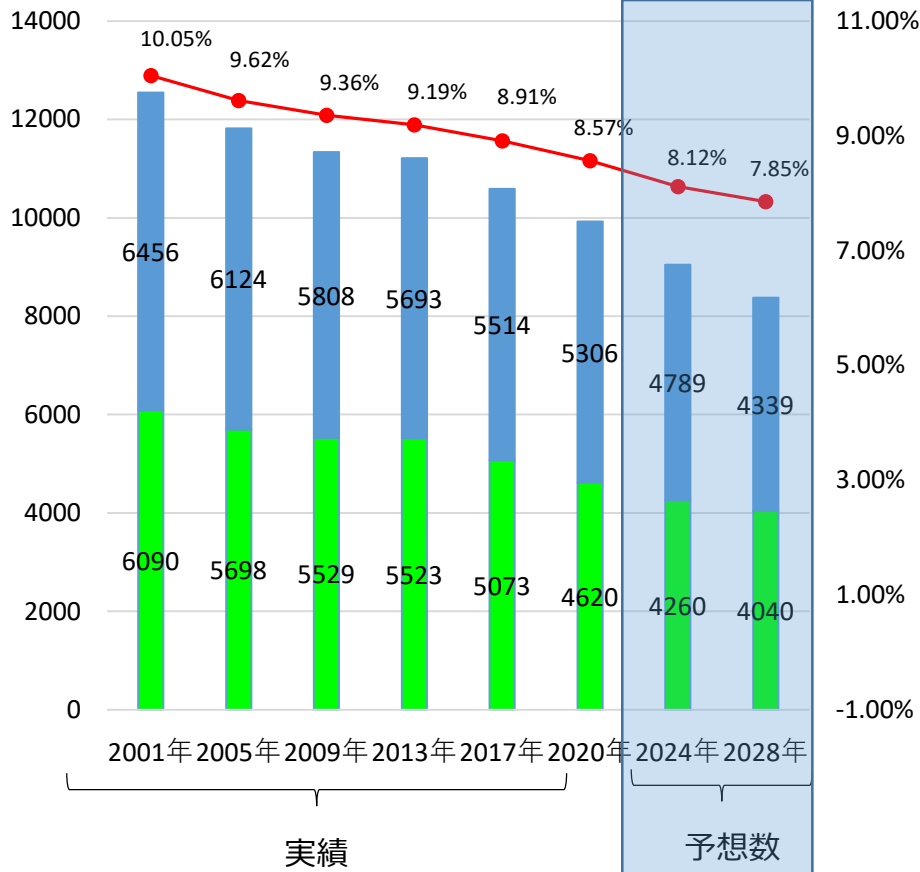


○別府市の総人口は減少し続けている。3階級別人口を見ると、老年人口（65歳以上）が人口・割合ともに増加し続け、本市は**少子高齢化傾向**となっています。将来的にも、少子高齢化が進んでいくと予想されます。

資料：住民基本台帳（各年3月31日）

### ■ 子ども人口（0～11歳）の推移

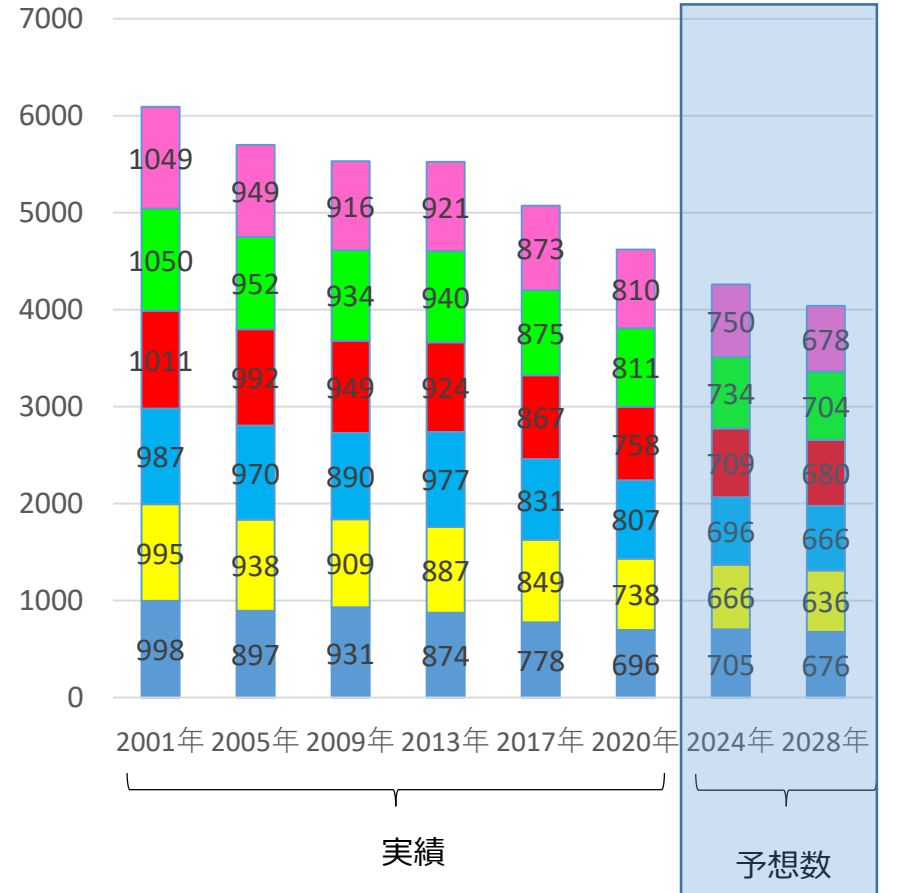
- 6～11歳
- 0～5歳
- 総人口に占める児童（0～11歳）の割合



○子ども人口も年々減少しており、**総人口に対する児童（0～11歳）の割合も低下**を続けています。今後も減少傾向をたどると予想されます。

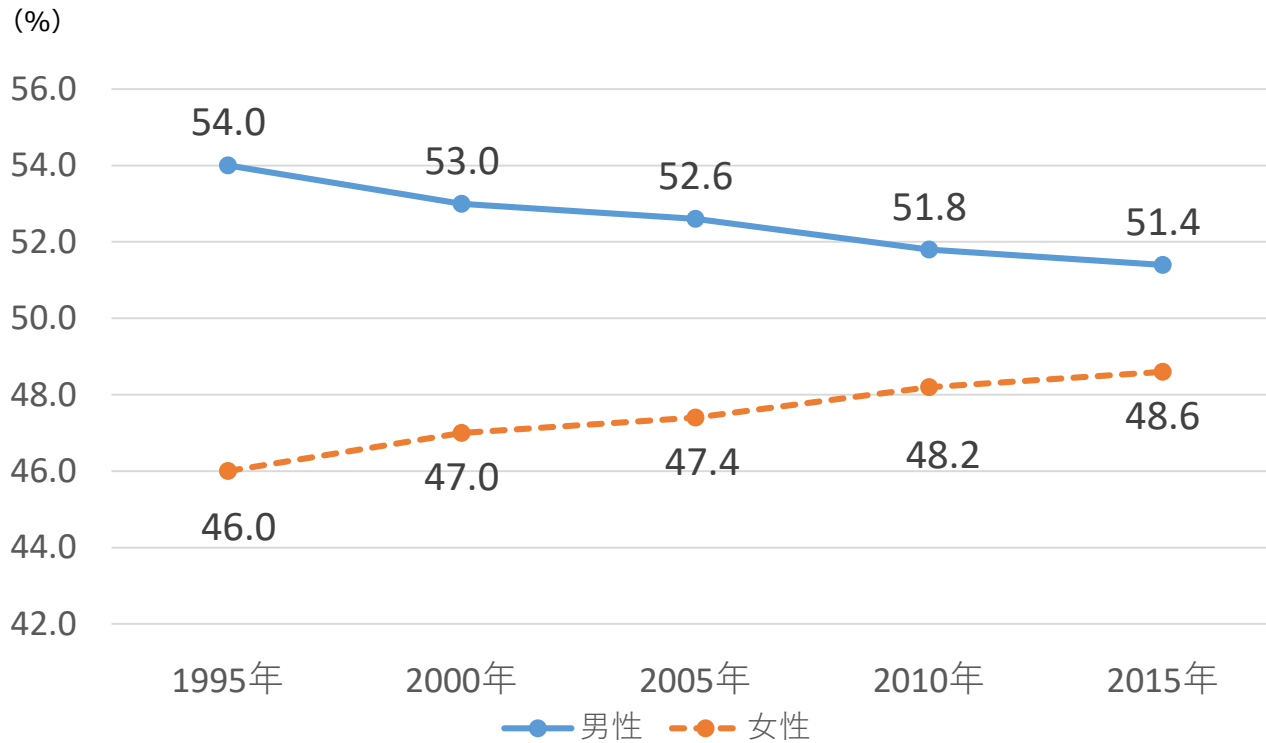
### ■ 0～5歳の1歳刻み人口

- 0歳
- 1歳
- 2歳
- 3歳
- 4歳
- 5歳



○就学前人口（0～5歳）は2001年は6000人を超えており、5歳児も1000人ほどであった。年々就学前人口は減少し、2020年は、2001年と比べると、全体で1400人程減少しました。（約25%減）

## ■ 男女別就業率の変化

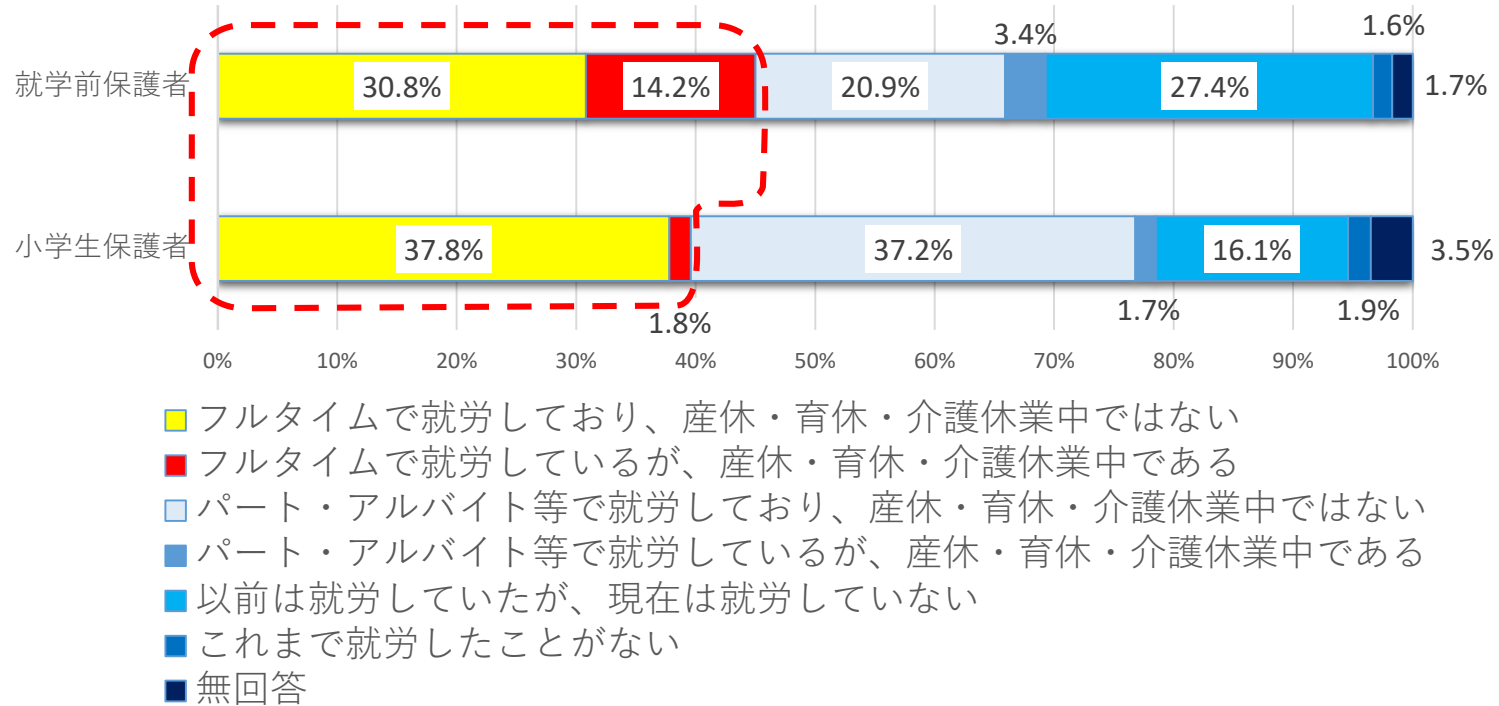


資料：総務省「国勢調査」

※就業率とは、生産年齢人口に占める総就業者数を男女別にみた割合

本市の15歳以上の就業率の推移をみると、男性の就業率は減少しているが、**女性の就業率は増加傾向**となっています。男女平等の機運の高まりに始まり、2015（平成27）年に女性活躍推進法も策定され、女性の社会進出の割合が高くなっていると考えられます。

## ■ 母親の就労状況について (H30調査)

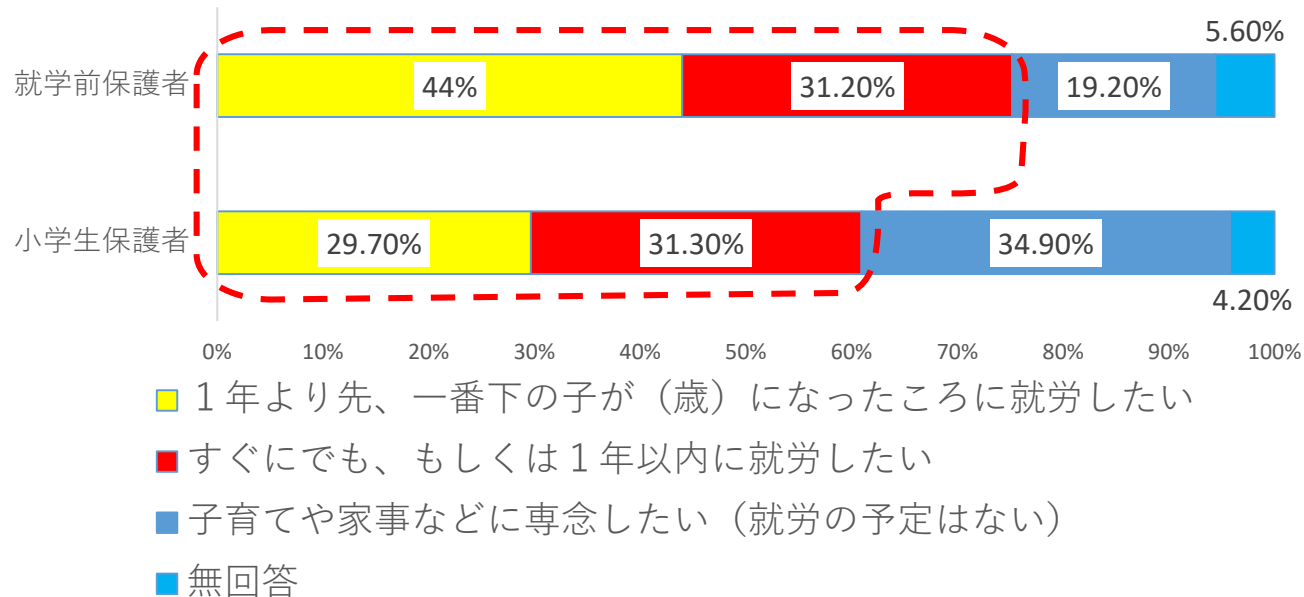


● 母親の就労状況について、今回H30の調査では就学前保護者、小学生保護者ともに「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」 } 合わせて4割を占めている。

### 【調査結果からみえる課題】

◎ 子育てをしながら**フルタイムで働く母親の増加を勘案**する必要があります。

■ 現在は就労していない、これまでに就労したことがない母親の今後の就労意向について (H30調査)

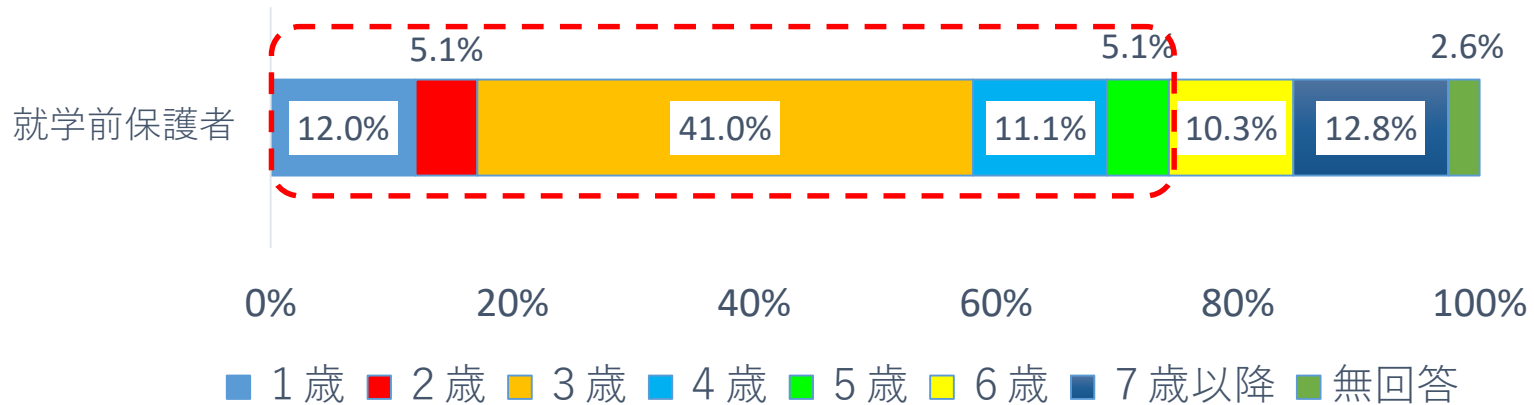


● 現在は就労していない、これまでに就労したことがない母親の今後の就労意向について、今回H30の就学前保護者では、就労したい(「1年より先、下の子が(歳)になったころに就労したい」+「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」)が75.2%、小学生保護者では61.0%となっています。

【調査結果からみえる課題】

◎ **就労意向の高まりを勘案し、仕事と育児の両立**ができるよう、子育て中の保護者に対する支援策を強化する必要があります。

■ 現在就労していない、これまで就労したことがない母親が「一番下の子どもが何歳になったところに就労したいか」について（H30調査）

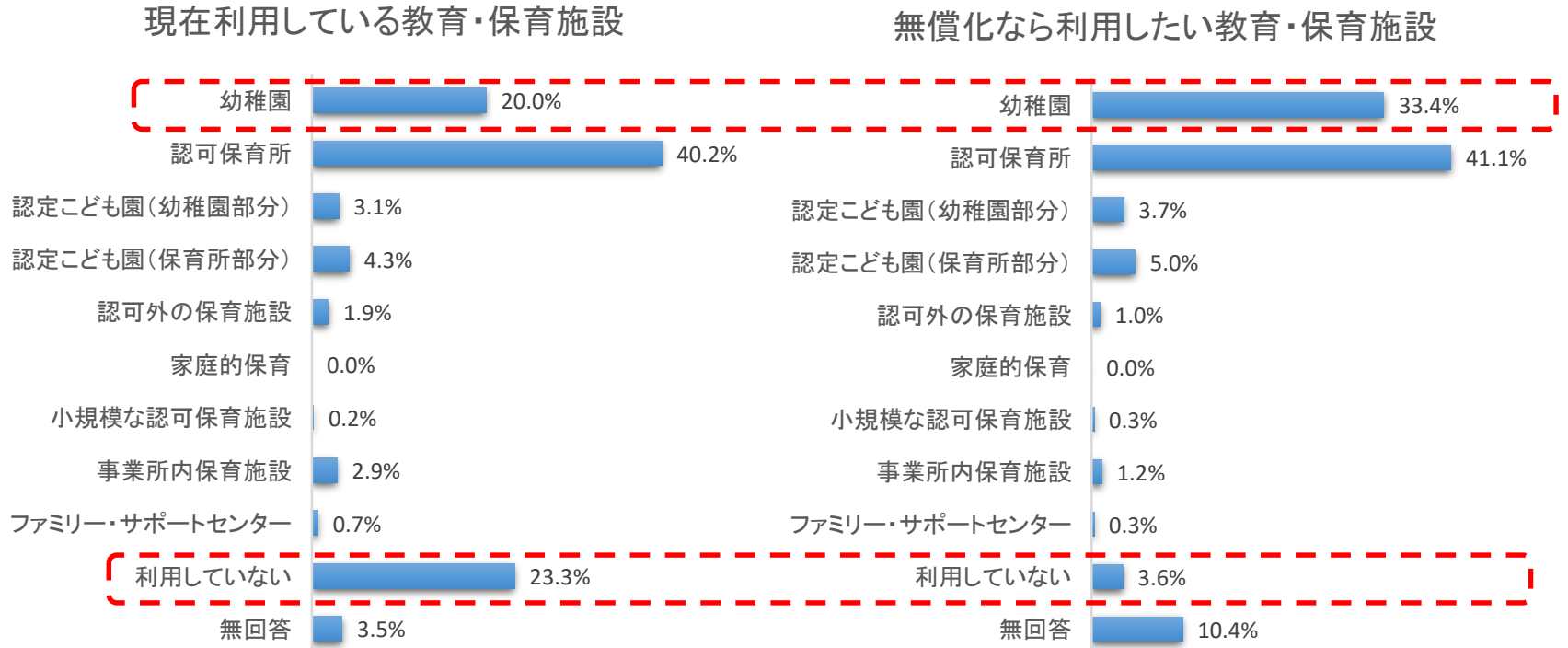


● 一番下の子どもが何歳になったところに就労したいかについて、今回H30の就学前保護者では、3歳が41.0%、がもっとも高くなっている。一番下の子どもが(何歳)になったら就労したいかについて、0～5歳と答えた保護者は7割を超えている。

【調査結果からみえる課題】

◎ 母親の就労意向を踏まえると、さらに就学前の教育・保育サービスのニーズが高まる可能性があります。

■ 現在利用している教育・保育施設と、幼児教育無償化が実施された場合の利用意向について (H30調査)



● 現在利用している教育・保育施設と無償化の影響を比較すると、無償化された場合、特に「幼稚園」の割合が増加している一方、「利用しない」の割合が現在「利用していない」の割合に比べて大きく減少していることから、**無償化後に教育・保育施設を利用する割合が増加**する見込みがあります。